

タイトル「**2021年度危機管理学部(公開用_コロナ対策版)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT3361		
科目名	国際地域研究 1 (アジア・オセアニア)		
担当教員	川中 敬一		
対象学年	4年	開講学期	前期
曜日・時限	月 4		
講義室	オンライン	単位区分	選
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門展開		
科目小分類	専門基礎		
科目の位置付け (開発能力)	<p>■ DPコード：学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連</p> <p>DP1-E [学識・専門技能] 専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。</p> <p>DP2-A [日本の精神文化を理解し多様な価値を受容する姿勢] 地球的視点で物事を多面的に捉え、異文化との交流の重要性を認識するとともに、異文化との交流を積極的かつ多面的に行い、相互理解を促進し互恵関係を構築することができる。</p> <p>DP4-I [理解力・分析力] 問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。</p> <p>■ CRコード：学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック (CR) との関連</p> <p>A1 グローバル感覚 (15%) A2 異文化適応 (15%) E1 学識と専門技能 (40%) I1 理解・分析と読解 (15%) I3 情報分析 (15%)</p>		
教員の実務経験	<p>防衛省本省及び研究機関、並びに、自衛隊上級司令部幕僚、部隊指揮官、防衛大学校教官等勤務、そして、周辺諸国の国家・軍事戦略の研究と対謀略活動を含む情報活動を加えて30余年勤務してきました。この職務上の経験を通じて、国際関係においては、文化、経済と軍事とが密接に絡み合い、それが政治活動の原動力となっている現実を痛感しました。こうした経験に基づいて、日本ではあまり顧みられない軍事を視野に入れたトータル・グローバリズムを考えていきたいと思えます。(第11～15回)</p>		
成績ターゲット区分	<p>■成績ターゲット 能力開発の目標ステージとの対応</p> <p>3 発展期 ～ 4 定着期</p>		
科目概要・キーワード	<p>国際安全保障及び海外での危機管理を学ぶためには、それぞれの地域がおかれている状況や文化、歴史について知る必要があります。それぞれの地域における政治的、経済的、文化的状況や、それぞれが持つ宗教問題、人種問題、独立問題など特殊な事情について具体的に学ぶことにより、安全保障や危機管理に活かすことが可能となります。ここではアジア・オセアニアについて学び、理解を深めることを目的とします。授業形態は講義により行います。なお、授業の一部を代替するためにオンデマンド授業取り入れる場合があります。開講曜日・時限に授業動画配信及び課題等を提示します。</p> <p>■キーワード； 世界観、価値観、戦争</p>		
授業の趣旨	<p>■副題 歴史の延長に定位する今日と未来</p> <p>■授業の目的</p>		

	<p>本授業では、第1に、アジア・オセアニアの地勢、政治及び経済に関する概括的知識を習得し、同地域を具体的にイメージする感覚的基盤を涵養します。第2に、同地域の現在に大きな影響を与えた西洋との接触過程を追跡することにより、今日の同地域における諸矛盾や摩擦の遠因を分析する能力を涵養します。そして、第3に、今日のアジアにみならず世界に大きな影響を及ぼし始めている中華世界が近代以降、一貫して追及してきた理念とその背景となる思想の概要を習得することにより、今日の地球的事象に対する中華世界の捉え方を看破する能力を涵養します。以上の能力を涵養することにより、アジア・オセアニア地域と欧米との共通点と相違点とを立体的かつ等身大に理解し、もって各種危機事象における対立と協調のいずれにも有効かつ実効的な行動方針を築く能力を修得することを目的とします。</p> <p>■授業のポイント</p> <p>戦争はもとより、犯罪も国境を跨ぎ、災害も国境を越えて向き合わなければならない今日、とても重要であるにも関わらず、つい失念しがちな問題があります。それは、ある同一の問題に対する自己と他者との捉え方の相違です。この齟齬は、概して価値観の相違に起因し、価値観の相違は世界観や死生観の相違へと拡張します。その好例が、宗教であり思想といった精神空間の相違であると言えます。この相違は、簡単に超越できるものではないことは容易に想像できます。他方、こうした精神空間を超越する必要が頻繁に生じるのが現今の人類を取り巻く実状であると言えます。この難題に取り組むに当たり、それぞれの精神空間は、文化に起因し、文化はそれが発祥する際に置かれていた自然環境にも影響されます。ようするに、こうした精神が関わる難題に取り組むには、他者の文化に対する等身大の理解が必須となるのです。そして、文化は、歴史上の自然と人為によって育まれた結実であることが、改めて認識されなければならない時代であると言えます。</p> <p>人間社会、特に国際社会は、共同と闘争が錯綜する空間です。この空間に生きる我々は、外部世界の思考と行動の原点に関する等身大かつ立体的な理解に基づく尺度の精度によって、ある同一の問題に対する外部世界の反応に関する予測の当否が大きく左右されると言えます。しかし、日本人は、約2,000年の長きにわたり言語や習慣に起因する価値観に関わる死生を賭けた闘争経験に乏しく、天皇制の存続により政治・精神的権威が不動でした。こうした背景をもつ我々日本人は、外部世界の共通する問題に対する反応を感知する能力と、何かをゼロから創造する能力が著しく脆弱である傾向を示すことが多いと言えます。その欠点ないし弱点を自覚して補うために、本授業では、外部世界、とりわけアジア・オセアニア地域において、圧倒的な存在感を示すアメリカと中国、そして、近年勃興著しく見えるインドの関わり合いの多面的歴史を辿ることを重視します。そして、学生諸氏が、ステレオタイプの基準を放擲し、それぞれの身を投じようとする分野における外部的存在の不変部分と可変部分とを峻別できる独自の尺度を創造することが、本授業の最大のポイントとなります。</p>
<p>総合到達目標</p>	<p>■学生は、アジア・オセアニア地域の実態を歴史的経緯を起点として、それぞれの主体（アクター）の行動原理を説明することができる。</p> <p>(1) 学生は、今日のアジアにおける一般的情勢とともに危機事態に関する情勢の実態を認識し、それらを域内相互及び域外諸国との関係において説明することができる。（第1～4回）</p> <p>(2) 学生は、歴史的潮流の中で、今日のアジアにおける諸現象の淵源を認識し、域内諸国の行動の源泉を分析することができる。（第5～10回）</p> <p>(3) 学生は、第1～10回授業で養成した観察眼をもって、現代中国を基軸としたアジア・オセアニア情勢の将来方向を予測する能力を修得できる。（第11～15回）</p> <p>■学生は、国際社会における価値観の多様性と、そこから生起する行動の相違を、人文的事実を基盤とした独創的尺度を構築し、外部世界と自己所属世界との相関関係を正確に把握できる能力を構築する。</p> <p>・ 歴史的手法をもって国際社会の行為主体（アクター）の意図を解明し、妥当性を担保した方向で将来予測できる能力を修得できる。（第5～15回）</p>
<p>成績評価方法</p>	<p>■リアクションペーパー4回（60%）；適用ルーブリック A1・A2・E1 （評価の観点）地域の歴史と実状への理解を拡張するために必要な最低限の知識を定着しているか否か、異なる価値観を等身大に理解しているか否かを評価します。 （フィードバックの方法）小テスト実施直後の授業における正答確認、教員による説明及び参考書の活用をもって、関連知識を定着手段とします。</p> <p>■レポート1回（40%）；適用ルーブリック A1・A2・E1・I1 （評価の観点）提示されるテーマに即して、事実を分析し、場合によっては数量的分析を交え、先入観や偏見から脱却した独創的な分析を行えているか否かを評価します。 （フィードバックの方法）提出された各人のレポートに対する教員による指導及びコメントを参考にした不足知識及び思考の本授業専用ノートへの記録をもって、自己の尺度の完成度向上手段を提供します。</p>
<p>履修条件</p>	<p>特にありません。</p>
<p>履修上の注意点</p>	<p>■授業中に触れる地名が、自身の中で「映像化」できるようにしてください。そのために、地図帳を常時手元に置き、地図上で授業中に登場する地名を確認することを推奨します。</p> <p>■本シラバスの教科書欄に記載の『今がわかる時代がわかる 世界地図2019年版』を予習及び復習において活用し、授業内容を視覚的に理解することを推奨します。</p>

■現今のアジア・太平洋地域で生起している各種事象が、何が発端で、どのような経緯を経て、今日の姿となって我々の耳目に触れる形態となったことを常に想像してください。

■日本の高校までの教育では触れることがなかったであろうにも関わらず、人間社会には常に存在する「闘争」に注目してください。闘争に勝利するにせよ、それを回避するにせよ、人間社会における闘争の歴史の実態を知ることは必須であるからです。

授業内容

回	内容
1	<p>①授業テーマ ガイダンス（授業の意義、授業進行要領、レポートの様式及び成績評価の説明）、アジア・オセアニアの地勢（地勢的知識の確認のために配布白地図に所要事項記入）</p> <p>②授業概要 （ガイダンス）授業の意義、授業進行要領、レポートの様式及び成績評価について確認する。 （地勢的知識の確認）学生は、教員が配布する白地図及びペーパーに指示された事項を記入し、関連知識の習得度を確認するとともに、アジアの包括的情勢を説明できる。 （A1・E1・I1）</p> <p>③予習（60分） 地図帳、高等学校地理教科書等を利用して、アジア・オセアニアを中心とした世界地理及び気象、地形等の地勢的知識を確認しておく。また、指定教科書『アジアの政治経済・入門』「序章 アジアの政治経済理解の魅力」～「第3章 アジアをめぐる国際関係」を読書する。</p> <p>④復習（180分） 授業中で習得した地勢的知識を、再度、新たに配布された白地図及びペーパーに記入し、それらを本授業専用ノートに添付する。</p>
2	<p>①授業テーマ 今日の東アジアの状況</p> <p>②授業概要 学生は、今日の東アジアの概況及び主要危機事象に関して、アメリカ及びロシアとの関係を交えて考察し説明できる。なお、学生は、授業の最後15分間で小テストを受験し、第1回次授業及び第2回次授業における知識の定着を図る。（A1・A2・E1・I1）</p> <p>③予習（180分） 指定教科書『アジアの政治経済・入門』「第4章 韓国」～「第6章 台湾」を読書する。</p> <p>④復習（60分） 指定教科書、配布プリント等を駆使して、授業中に配布されたペーパーに所要事項を記入し、それを本授業専用ノートに添付する。</p>
3	<p>①授業テーマ 今日の東南アジアの状況</p> <p>②授業概要 学生は、今日の東南アジアの概況及び主要危機事象に関して、中国及びアメリカとの関係を基軸に考察し説明できる。（A1・A2・E1・I1）</p> <p>③予習（180分） 指定教科書『アジアの政治経済・入門』「第7章インドネシア」～「第12章 ASEAN」を読書する。</p> <p>④復習（120分） 指定教科書、配布プリント等を駆使して、授業中に配布されたペーパーに所要事項を記入し、それを本授業専用ノートに添付する。</p>
4	<p>①授業テーマ 今日の南アジアの状況</p> <p>②授業概要 学生は、今日の南アジアの概況及び主要危機事象に関して、インドを基軸に説明できる。なお、学生は、授業の最後15分間で小テストを受験し、第3回次授業及び第4回次授業における知識の定着を図る。（A1・A2・E1・I1）</p> <p>③予習（120分） 指定教科書『アジアの政治経済・入門』「第13章 インド」を読書する。</p> <p>④復習（120分） 指定教科書、配布プリント等を駆使して、授業中に配布されたペーパーに所要事項を記入し、それを本授業専用ノートに添付する。</p>
5	<p>①授業テーマ アジアと西洋との邂逅</p> <p>②授業概要 学生は、16世紀以降の西洋人によるアジア進出の目的と経緯を説明できる。特に、</p>

	<p>学生は、19世紀における英、仏、露各国の進出と、インド、中国及びそれらの周辺地域の脅威認識と対処行動を関連づけて説明できる。(A1・A2・E1・I1) (A1・A2・E1・I1)</p> <p>③予習(120分) 第3回授業で配布されるプリントを歴史世界地図を併用しながら読書する。</p> <p>④復習(120分) 第5回授業に該当する配布プリントに、授業中の教員によるコメント及び補足説明を加筆し、それを本授業専用ノートに添付する。</p>
6	<p>①授業テーマ アメリカの登場</p> <p>②授業概要 学生は、建国前後におけるアメリカがアジアに見出した利益の実態と、19世紀におけるアメリカ指導層のアジア・太平洋進出理想と権益観との関係を考察し説明できる。(A1・A2・E1・I1)</p> <p>③予習(120分) 第3回授業で配布されるプリントを歴史世界地図を併用しながら読書する。</p> <p>④復習(120分) 第6回授業に該当する配布プリントに、授業中の教員によるコメント及び補足説明を加筆し、それを本授業専用ノートに添付する。</p>
7	<p>①授業テーマ ザ・グレート・ゲーム</p> <p>②授業概要 学生は、19世紀初頭から20世紀初頭にかけての世界戦略構造であったザ・グレート・ゲームの経過概要と、日清・日露戦争の世界規模における定位を考察し説明できる。(A1・A2・E1・I1)</p> <p>③予習(120分) 第3回授業で配布されるプリントを歴史世界地図を併用しながら読書する。</p> <p>④復習(120分) 第7回授業に該当する配布プリントに、授業中の教員によるコメント及び補足説明を加筆し、それを本授業専用ノートに添付する。</p>
8	<p>①授業テーマ 中体西用と和魂洋才</p> <p>②授業概要 学生は、欧米帝国主義の侵略に対する日本と中国それぞれの脅威認識、対処思想・姿勢を対比し、その今日的影響を考察し説明できる。(A1・A2・E1・I1)</p> <p>③予習(120分) 第3回授業で配布されるプリントを歴史世界地図を併用しながら読書する。</p> <p>④復習(120分) 第8回授業に該当する配布プリントに、授業中の教員によるコメント及び補足説明を加筆し、それを本授業専用ノートに添付する。</p>
9	<p>①授業テーマ 近代中国革命と世界</p> <p>②授業概要 学生は、清朝末期以降の改革、革命に共通する理念から、20世紀における中国の外部世界への向き合い方と、世界戦略構造との関係から、中国の今日における動向の本質的方向性を考察し説明できる。(A1・A2・E1・I1)</p> <p>③予習(120分) 第3回授業で配布されるプリントを歴史世界地図を併用しながら読書する。</p> <p>④復習(120分) 第9回授業に該当する配布プリントに、授業中の教員によるコメント及び補足説明を加筆し、それを本授業専用ノートに添付する。</p>
10	<p>①授業テーマ 冷戦とアジア</p> <p>②授業概要 学生は、冷戦構造のアジアにおける様相をアメリカ、ソ連の観点と中国にとっての台湾問題を基軸として考察し説明できる。なお、学生は、授業の最後20分間で小テストを受験し、第5回授業から第10回授業までにおける知識の定着を図る。(A1・A2・E1・I1)</p> <p>③予習(120分) 第3回授業で配布されるプリントを歴史世界地図を併用しながら読書する。</p> <p>④復習(120分)</p>

	<p>第10回授業に該当する配布プリントに、授業中の教員によるコメント及び補足説明を加筆し、それを本授業専用ノートに添付する。</p>
11	<p>①授業テーマ 中共の軍事戦略</p> <p>②授業概要 学生は、近代中国革命の究極的理念と伝統的戦略思想に照らして、中国共産党（中共）の軍事戦略の普遍的原則と拡充の発展方向を考察し説明できる。（A1・A2・E1・I1）</p> <p>なお、担当教員が中国人民解放軍軍人を含む多くの各国軍人や国防実務者との学術・実務的接触や意見交換から得られた知見を交えた講義を実施します。</p> <p>③予習（120分） 第10回授業で配布されるプリントを読書する。</p> <p>④復習（120分） 第11回授業に該当する配布プリントに、授業中の教員によるコメント及び補足説明を加筆し、それを本授業専用ノートに添付する。</p>
12	<p>①授業テーマ 中国の核・宇宙・海洋戦略</p> <p>②授業概要 学生は、中国における核・宇宙・海洋の連鎖を戦略的視点から考察し説明できる。（A1・A2・E1・I1）</p> <p>なお、担当教員が中国人民解放軍軍人を含む多くの各国軍人や国防実務者との学術・実務的接触や意見交換から得られた知見を交えた講義を実施します。</p> <p>③予習（120分） 第10回授業で配布されるプリントを読書する。</p> <p>④復習（120分） 第12回授業に該当する配布プリントに、授業中の教員によるコメント及び補足説明を加筆し、それを本授業専用ノートに添付する。</p>
13	<p>①授業テーマ 中華世界内部の理念と矛盾</p> <p>②授業概要 学生は、中華世界における理想と現実との乖離に起因する各種矛盾と摩擦を考察し説明できる。なお、学生は、授業の最後15分間で小テストを受験し、第11回授業から第13回授業までにおける知識の定着を図る。（A1・A2・E1・I1）</p> <p>なお、担当教員が北京大学、復旦大学及び上海交通大学等の中国人研究者、並びに、国内研究者との学術・実務的接触や意見交換から得られた知見を交えた講義を実施します。</p> <p>③予習（120分） 第10回授業で配布されるプリントを読書する。</p> <p>④復習（120分） 第13回授業に該当する配布プリントに、授業中の教員によるコメント及び補足説明を加筆し、それを本授業専用ノートに添付する。</p>
14	<p>①授業テーマ 米中印とアジア・太平洋</p> <p>②授業概要 学生は、アメリカ、中国、そして、インドという超大国によって大きく影響を受けるアジア・太平洋空間と日本の実態とを比較しながら将来を考察し説明できる。（A1・A2・E1・I1）</p> <p>なお、担当教員が中国人民解放軍軍人及びアメリカ海軍を含む多くの各国軍人や国防実務者との学術・実務的接触や意見交換から得られた知見を交えた講義を実施します。</p> <p>③予習（120分） 第10回授業で配布されるプリントを読書する。</p> <p>④復習（120分） 第14回授業に該当する配布プリントに、授業中の教員によるコメント及び補足説明を加筆し、それを本授業専用ノートに添付する。</p>
15	<p>①授業テーマ 拡大するアジア・太平洋空間</p> <p>②授業概要 学生は、南太平洋及びインド洋に面するオセアニアと米中印に影響を受けるアジアとの接合によって生じる変化を考察し説明できる。（A1・A2・E1・I1）</p> <p>なお、担当教員が中国人民解放軍軍人、アメリカ国防情報局及びインド国防省を含む多くの各国軍人や国防実務者との学術・実務的接触や意見交換から得られた知見を交えた講義を実施します。</p> <p>③予習（60分）</p>

	<p>第10回授業で配布されるプリントを讀書する。</p> <p>④復習（180分）</p> <p>第15回授業に該当する配布プリントに、授業中の教員によるコメント及び補足説明を加筆し、それを本授業専用ノートに添付する。同時に、第10回授業において教員から提示されるテーマに関するレポートを作成し、指定日時までに提出する。</p>
関連科目	国際地域研究2（中東・アフリカ）（RMGT3363）、国際地域研究3（ヨーロッパ・ユーラシア）（RMGT3364）、国際地域研究4（北南米）（RMGT3365）
教科書	<p>■授業中に配布するプリント</p> <p>■市販教科書</p> <p>（1）片山裕・大西裕『アジアの政治経済・入門』有斐閣、2006年、ISBN:978-4-641-18386-5（定価2,700円（税込））</p> <p>（2）成美堂出版編集部『今がわかる時代がわかる 世界地図2019年版』成美堂出版、2018年、ISBN:978-4-413-11287-9（定価1,728円（税込））</p>
参考書・参考URL	<p>以下の他、授業中に逐次、教員から別途案内します。</p> <p>（1）ヘイジル・ヘンリー・リデルハート『リデルハート 戦略論 間接的アプローチ（下）』原書房、2010年、ISBN：978-4-562-04551-8(定価：2,400円(税別))</p> <p>（2）村井友秀『戦略論大系⑦毛沢東』芙蓉書房出版、2004年、ISBN：4-8295-0308-4(定価：3,800円(税別))</p> <p>（3）岡本隆司『中国の論理』中央公論社、2016年、ISBN:978-4-12-102392-6（定価：820円（税別））</p> <p>（4）渡辺惣樹『日本開国』草思社、2000年、ISBN：978-4-7942-1737-0（定価：1,800円（税別））</p> <p>（5）末里周平『セオドア・ルーズベルトの生涯と日本』丸善プラネット、2013年、ISBN：978-4-86345-1735（定価：1,000円（税別））</p> <p>（6）渡辺惣樹『日本 1852 ペリー遠征計画の基礎資料』草思社、2016年、ISBN:978-4-7942-2220-6（定価：900円（税別））</p> <p>（7）後藤敦史『忘れられた黒船 アメリカ北太平洋戦略と日本開国』講談社、2017年、ISBN:978-4-06258654-2（定価：1,850円（税別））</p> <p>（8）M・C・ペリー『ペリー提督日本遠征記 上』KADOKAWA、2014年、ISBN:978-4-04-409212-2（定価：1,360円（税別））</p> <p>（9）M・C・ペリー『ペリー提督日本遠征記 下』KADOKAWA、2014年、ISBN:978-4-04-409213-9（定価：1,360円（税別））</p> <p>（10）ジョン・アントワープ・マクマリー『平和はいかに失われたか』原書房、1997年、ISBN:978-4-562-02842-9（定価：2,800円（税別））</p> <p>（11）渡辺惣樹『誰が第二次世界大戦をおこしたのか』草思社、2017年、ISBN:978-4-7942-2277-0（定価：1,800円（税別））</p> <p>（12）丸川哲史『魯迅と毛沢東』以文社、2010年、ISBN:978-4-7531-0278-5（2,800円（税別））</p> <p>（13）丸川哲史『中国ナショナリズム』法律文化社、2015年、ISBN:978-4-13-032218-8（定価：2,500円（税別））</p> <p>（14）麻田貞雄『マハン海上権力論集』講談社、2010年、ISBN:978-4-06292-027-8（定価：920円（税別））</p> <p>（15）松岡完・広瀬佳一・竹中佳彦『冷戦史』同文館出版、2003年、ISBN:978-4-49546-331-1（定価：2,900円（税別））</p> <p>（16）佐藤望『アカデミック・スキルズ』慶應義塾大学出版会、2006年、ISBN:978-4-7664-1960-3（定価：1,000円（税別））</p> <p>（17）磯崎陽輔『分かりやすい公用文の書き方 改訂版（増補）』ぎょうせい、2018年、ISBN:978-4-324-10525-2（定価：2,000円（税別））</p>
連絡先・オフィスアワー	<p>■連絡先 開講時に告知します。</p> <p>■オフィスアワー 木曜日3限。それ以外の時間については、メール等で事前にアポイントをとることにより研究室等に対応します。</p>
研究比率	<p>■危機管理領域との対応</p> <p>災害マネジメント30%：パブリックセキュリティ30%：グローバルセキュリティ40%：情報セキュリティ0%</p> <p>■危機管理学と法学とのバランス</p> <p>危機管理学90%：法学10%</p>

